

市川を調べる

発行 八戸市立市川公民館(木村 隆一)
市川を調べる会(会長 星 一郎)



へ市川を調べるへ 原稿募集

去る三月一日にはへ市川を調べるへ
第一号を発行・市川地区の約四千五百
世帯に配布することができました。

引き続き第二号を発行すべく準備
を進めているところですが、皆様から
も広く原稿を募集したいと思えます。
その方法として、ファミリーレストラン
⇨通称「ファミレス」⇨方式を採用し、
準備してあります二十ほどのメニュー
(項目)の中から自由に選んで書いてい
ただくというものです。

大まかな項目は「神社」「昔がたり」
「人物」「地区」「その他」です。詳しくは
裏面をご覧ください。空欄もいくつかあ
りますので、自分で新しいメニューを考
えて下されば、すばらしいレストラン
が誕生するようになります。皆様、
どうぞご応募下さいますようお願いし
てお願い申し上げます。

出来上がった原稿は、市川公民館ま
でお届下さい。お名前入りの記事を全
世帯に配布いたします。

市川を調べる会 会長 星 一郎

【市川街道往還記】

多賀台 奈良 孝次郎

市川昔がたり②

〈市川街道のにぎわい〉

現在の市川は江戸時代に、**上市川**と対比して**下市川**といわれ、**盛岡藩領**で**五戸代官所の支配地**だった。**市川街道**は、三沢・百石・下市川を通して八戸藩領をつなぐ要路で、平時は割合ににぎわっていた。地元の住民はもち論、百石や三沢に行く人、商売で八戸や剣吉方面へ出る人など、いろいろな人が通った。八戸へ出る場合には、小田・河原木・内舟渡(ないみなと)へ出て大橋を渡った。木造の大橋は洪水で流されることもあり、その場合は、**渡し**が利用された。現代の近代工法による大橋は、昭和6年(1931)にやっと完成された。八太郎へ出て、渡しで沼館・八戸へ出る方法もあった。

〈巡見使が宿泊した〉

時には珍しい集団が通ることもあった。例えば、北から江戸幕府の巡見使一行が宿泊・通過した。巡見使は、将軍の代わりごとに諸国を巡回して、各藩の行政や治安を視察する役目をもっていた。巡見使を迎えるために、どの藩も大へん気をつかった。道を掃除させたり、橋を補修させたりした。

天明8年(1778)9月、藤沢要人・川口久助・三枝七兵衛の三名が巡見使だった。彼らは大身の旗本で、駕籠に乗り小者をしたがえ、大名行列なみの人数だった。その際の見聞として、**下市川**のことを「**30軒ばかりの在所**である。」と記録している。天保9年(1838)にも同じように巡見している。

〈測量隊の一行も〉

逆に南から北へ通った集団もある。幕府の天文方で、実測地図をつくるために全国を歩いた**伊能忠敬とその一行**である。享和元年(1801)10月(陰暦)、三陸海岸の久慈・角浜・鮫・白銀・八太郎を経て市川村についた。一行は測量隊が忠敬を入れて6名、ほかに忠敬が乗った駕籠のかつぎ手や荷物を運ぶ人夫などを入れて14~15名ぐらいか。「御用」と大書した「幟(のぼり)」を立てて歩測しながら通行した。村人からは珍奇の目で見られたと思われる。市川では「**兵太の家に宿泊した**」と忠敬は日記に記録しているが、その家がどこかはわからない。その後、百石から三沢への途中はげしい吹雪にあい、測量どころではなく、翌日やり直しをした。

〈市川拂いがあった〉

当時の**八戸藩**では、領地内の犯罪者を軽罪の場合は「**所拂い(ところばらい)**」にした。領内からの追放で、**当時の藩はどの藩でもやっていた常法**である。その際、市川辺までつれてきてそこでとき放した。それを「**市川拂い**」と称したりした。その場所は**盛岡藩と八戸藩の藩境**で、現在の**三菱製紙八戸工場の敷地辺**にあたる。なお、追放された人たちは職を求めて各地へ散ったと思われる。

〈参考:「青森県史(6)(7)」、「下長の歴史」 など〉

